

コラムニスト石原壮一郎



1963年、三重県生まれ。著書「大人養成講座」「大人力検定」などで、日本の大人シンを牽引。故郷の名物「伊勢うどん」を応援し「伊勢うどん大使」を務める。

痛快! 気くばり指南
「親父の小言」
小泉 吉永著
青春出版社 830円

観光地の土産物売り場で、湯飲みや手拭いにストラップと書いてある「親父の小言」を見たことはないで

ようか。

「人には腹を立てるな」

「年寄りはいたはれ」

「大酒は飲むな」

といったアレです。

本書を読んで初めて知っ

たのですが、あれの基にな

っているのは、昭和3年に

江戸版「親父の小言」には生活の知恵が満載

書かれた晩仙和尚自筆「親父の小言」45カ条かどうか。現在は、福島県浪江町(震災後、福島市内に避難)の大聖寺が所蔵しています。

往来物研究家で江戸をテーマにした編著書も多い著



者は、去年の2月、ネットオークションで江戸時代に書かれた「親父の小言」を入手。中を見てみると、全国に普及している「親父の小言」が45カ条なのに対して、江戸版は81カ条で構成されていました。

この本は、よりポリュームたっぷりの江戸版を基に、それぞれの項目について見開きで解説を加えて、丁寧に読み解いたもの。そこから、日常生活に役立つ深い知恵はもろろん、日本人が何を大切にしてきたか、大人としてどう生きていくべきかが、はっきりと浮かび上がってきます。

たとえば「己が股をつねれ」という1条。ここからは「我が身をつねって人の痛さを知れ」という怒(思いやり)の道を教わることでできます。もちろん、身体的な痛みの話ではありません。人を使う主人は、使用人の気持ちを察して、常に思いやりの気持ちを忘れないことが、しっかり働いてもらう秘訣だと説いています。

またこの項目の解説では、関係のある余談として、江戸庶民の求愛行動も紹介。すれ違いざまに男性が女性の尻をつねったり叩いたりして、女性が笑顔で振り向けば、それは「OK」のサインだったとか。現代では、この方法で女性にアプローチするのはリスクが大きすぎますが、そんな小ネタから江戸時代の雰囲気や味わい、夢をふくらませるのも大人の愉しみといえるでしょう。

本書で具体的な「親父の小言」やその神髄を身に付けば、ひと味違う大人の親父に脱皮できること請け合いです。